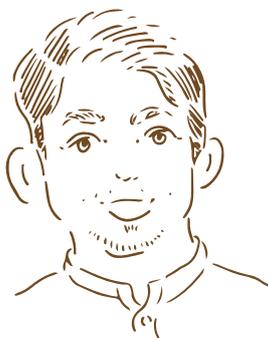


ANNUAL ACTIVITY REPORT 2024



ご支援くださっている皆様、いつもありがとうございます。



いつも応援してくださっている皆様へ

いつもここいろhiroshimaを応援してくださりありがとうございます。

私たちは2018年から任意団体として活動を始め6年、2024年に法人化して1年、これまで7年間活動を続けて参りました。7年という年月の間に、中高生だったユースが社会に巣立つタイミングを迎えたり、20代半ばだった私たちも30代に突入し、大きな時の流れを感じています。

2024年は、団体としても法人化という一つの大きなターニングポイントを迎え、手探り&試行錯誤の1年間でしたが、無事に1期目を終えることができました。この1年で事務所を構えることができたり、SNS相談を継続して行える体制ができたり、安心して活動を継続できる基盤を構築していくことができました。これも日頃の皆様のご支援のおかげです。改めてお礼申し上げます。

この報告書では、2024年度（2024年1月～12月）の活動報告をさせていただきます。現在のここいろhiroshimaの活動状況と合わせて、皆様のご支援がどのような形となって子どもたちや保護者さんへ届いているかを知っていただく機会になれば幸いです。

一般社団法人ここいろhiroshima 共同代表理事 當山敦己・高畑桜

ここいろhiroshimaの活動紹介

居場所づくり

活動当初から続けているLGBTQ+（かもしれない人も含む）の子どもたちと保護者のための交流会である「ここいろ会」の他、対象別に開催している「中高生の会」「保護者会」も行っています。長期休みなどには事務所を活用したオープンデーを実施し、安心して過ごせる居場所、ありのままの自分で居られる時間をつくっています。

相談事業

LINEを使って相談ができる「ここいろチャット」と、対面またはオンラインツール（zoom）での個別相談を実施。相談者のニーズに応じた関わり方で、「安心できるつながり」をつくりながらサポートしています。

啓発活動

年代や対象に応じた伝え方で「多様な性のあり方や生き方」、「自分らしく生きること」について伝えています。「誰もが安心して過ごせる環境づくり」について、一緒に考えていくことを大事にしながら啓発活動に取り組んでいます。

2024年の活動実績

居場所づくり

計18回 計344名

内訳

ここいろ会	8回	約240名 <small>※記録がないため1回あたりの参加者の平均30名で計算しています。</small>
中高生の会	4回	計47名
保護者会	4回	計36名
オープンデー	2回	計21名

啓発活動

計65件

内訳

学校	36校
教職員・PTA	13件
行政・地域団体・企業など	16件

相談事業

個別相談	7件
SNS相談	188件（1回平均6.5件） ※2024年度29回実施（1回3時間実施）

居場所づくり

事務所を構えることができました！

～事務所でのオープンデイの様子～

法人化したことでの大きな変化は、事務所を構えて居場所づくりや打ち合わせ等を行えるようになったことです。2024年2月25日に事務所開きを行い、約50名の方が事務所へ来て一緒にお祝いしてくださいました。また、夏休み等長期休暇の際に24歳以下のLGBTQ+（かもしれない人も含む）ユースが自由に出入りできる【ほっとスペースここいろ（オープンデイ）】を開催することができました。

オープンデイでは、家からもってきた宿題をしている子もいれば、ボードゲームやテレビゲームで遊んでいる子もいたり、お菓子を食べてながらおしゃべりしたり、バイトまでの時間お昼寝しに来たり、その時自分がしたいと思うことを選んでユースたちは過ごしています。（私たちが一緒にゲームをしたり、高校野球を見て過ごしたりしました^-^）8名ほど入るといっばいになってしまうスペースに、10名前後のユースが来てくれて、ほとんどの子が開始から終了まで滞在してともに過ごしました。普段の交流会ではできない過ごし方ができるので、子どもたち同士も打ち解けやすい環境になったのではないかと思います。



事務所という拠点があることで、事務作業や打ち合わせはもちろん個別対面相談の場所としても活用でき、相談者にとって安心できる環境で相談できるようになりました。今後も事務所を活用しながら訪れた方が安心できる機会・時間をつくっていきます。

2024年の各交流会について

～ここいろ会～

2024年4月から1開催から2ヶ月に1度ペースに変更して開催しました。公共施設の和室を借りてプチ夏祭りを開催したり、コロナ禍にはできなかったBBQを開催したり、季節の行事を楽しみました。毎年恒例のクリスマス会は、今年は長年関わってくれているユースがゲーム進行やおやつ準備など会の運営を手伝ってくれ、7年間での成長や変化を感じました^-^



～中高生の会～

2024年はリアルでの開催を3回、オンラインでの開催を1回行いました。遠方からは直接参加が難しいこともあり、オンラインでの交流会を行うことで安心して話せる機会を設けました。会の中で同じような立場の友達と情報交換したり、大学生等の運営メンバーから進路や大学のことなどを聞けることで、自分の将来が描きやすくなったと考え方や選択肢の幅が広がるような機会になったのではないかと思います。

～保護者会～

2022年より開始した保護者会は、年4回の定期開催で実施しており有志の運営メンバーと開催しています。2024年は通常のおしゃべりをしたり情報交換をする会の他、産婦人科医でありジェンダー外来もされている藤田圭以先生をゲストを招いての交流会も行いました。専門的な知識があり、保護者の困り感を理解し寄り添う人がいることで、保護者も安心して我が子を見守ることができるのだと実感しました。今後も保護者が安心できるつながりを作っていきます。



進学・就職など人生の門出を迎えたユースの声

～2018年から活動を始め、7年間で出逢ったたくさんのユースたち～

今年は活動初期の頃に中高生として出逢ったユースたちが、進学・就職など人生の新たな一步を踏み出すタイミングと重なり、報告を受けたり、お祝いさせてもらう機会がありました^-^ その中から数名にここいろhiroshimaでの交流会のことや現在の心境を聞かせてもらいました。

ユースインタビュー

○1人目のユース（18歳・春から就職）

「初めて交流会に参加したのはいつ？」

中学2年生ぐらい

「ここいろの交流会ではどんな風に過ごしてた？」

スッと来て絵とか書いてスッと帰る

「ここいろのことはどんな風に思ってた？」

色々な人がたくさんいるところ

「新たな人生の門出に立った今の心境は？」

一人暮らしに不安を感じすぎて肌あれしてます。でも県外なので楽しみです。

「過去の自分に向けて一言メッセージを送るとしたら？」

軽く考えた方がいい。自分は変えられるし、変わる人間だったぞ。

○2人目のユース（24歳・春から大学院進学）

「初めて交流会に参加したのはいつ？」

2021年3月20日（土）ここいろ会

「ここいろの交流会ではどんな風に過ごしてた？」

子ども達と一緒にかけっこをして遊びました。

「ここいろのことはどんな風に思ってた？」

どんな自分でも受け止めてくれる、包容力がある空間

「新たな人生の門出に立った今の心境は？」

これまでここいろを通じて多くのパワー・勇気もらった。今度は、それらをあげる事ができるようになりたい！

「過去の自分に向けて一言メッセージを送るとしたら？」

自分が今一番「楽しい」と感じられる生き方を取り敢えず試してみたいかが？

○3人目のユース（24歳・春から就職）

「初めて交流会に参加したのはいつ？」

高校3年生

「ここいろの交流会ではどんな風に過ごしてた？」

初期の頃は、集まった人みんなで話したりして過ごしていた話す内容はセクシュアリティに関する困難や不安などもあれば、最近どう？という近況など

「ここいろのことはどんな風に思ってた？」

集まる人誰もが、セクシュアリティに関して不安や疑問をはじめとした関心を持っているという前提があるので、ここなら自分の今感じていることや考えていることが否定されたり、好奇心で見られたりせずに話せる環境だと思っている

「新たな人生の門出に立った今の心境は？」

今は生活がきちんとできるか不安だらけだけど、もし生活ができなかったとしても帰る場所があることへ安心と感謝がある

「過去の自分に向けて一言メッセージを送るとしたら？」

関心の向くままに向かっていけば大丈夫！

これまでなかなか聞く機会がなかったのですが、今回のインタビューを通してここいろという居場所がユースにとって安心して過ごせる場所・仲間との出逢いがうまれる場所になっていたんだと改めて知れました。未来への希望や不安を抱えながらも一歩踏み出す姿を見せてもらっていることに感謝とエールを送りつつ、7年間活動を続けてきて本当によかったなと思いました。これからも「何かあれば帰ってこれる居場所がここにはあるよ」と伝え続けていきます。改めて、おめでとうございます！

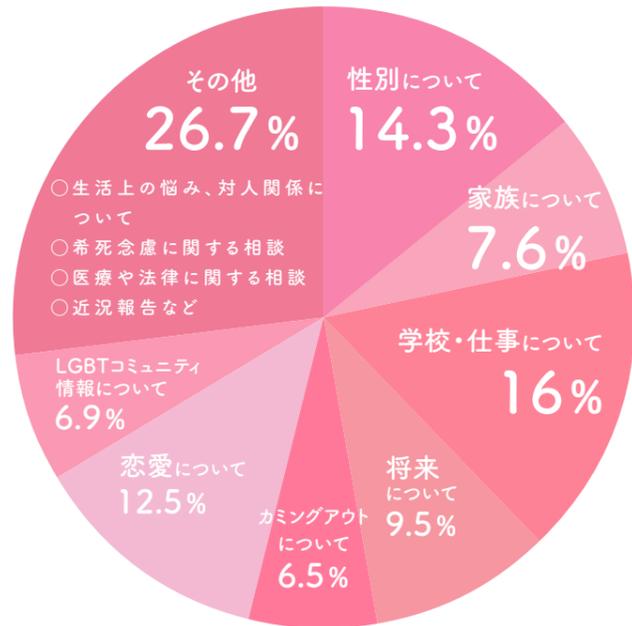
相談事業

ここいろチャット（LINE相談）

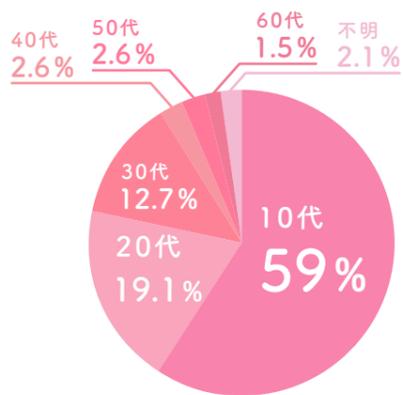
2023年11月に相談専用アカウントを作成し、2024年4月からは相談員も増やしながらか相談体制の基盤をつくってきました。
年代や居住地問わず、LINEで相談を受けながら安心できる関わりをつくっています。

ここいろチャット登録者数 **203名**

相談内容の内訳（n=203）



SNS相談利用者の年代内訳



SNS相談カード



名刺サイズのカードを作成し、講演先の学校や施設に配布しています。

アンケート結果（31件回答）

ここいろチャットを利用した理由



身近なLINEを使って相談ができることから、相談に対するハードルが下がっているのではないかと考えます。テキストのみのやり取りであっても、「話を聞いてもらえた」「ひとりじゃない」と感じられる関わりが持てるように相談員も試行錯誤しながら対応しています。

今後も利用したいと思いますか？



支援は単発で終わるものではなく、長期的な関わりが必要になります。そのため、「また利用したい」と思ってもらえることで、信頼できる関係性を築いていくことができます。

ここいろチャット相談者の内訳（n=31）



県外からの相談者も増加傾向にあり、LINEでやり取りを重ねた後にここいろの居場所につながるケースも出てきています。オンラインの相談と、オフラインの居場所サポートできる強みが活かされています。

相談員の声

ここいろチャットに関わってくれている相談員のメンバーに、インタビューしてみました～！メンバーのみなさんがどんな気持ちで相談に関わっているのかを知っていただくと嬉しいです^^

相談員インタビュー

（相談員：Hさん）

①ここいろチャットの相談員として仲間になった理由を教えてください。

子どもから大人まで幅広い年齢層からの性に関する相談対応を通して、相談者一人ひとりが抱える悩みや様々な気持ち等に真剣に向き合うことで、自信を持って自分らしい生き方が日常生活の中で表現できるように文字会話での相談支援でサポートしていきたいと思ったからです。

②日々、相談者のさまざまな気持ちに向き合っているとありますが、相談員としての「むずかしさ」や「やりがい」を教えてください。

○「むずかしさ」
文字会話での相談は、相手の表情が分からないため、相談者の言葉一文字ずつ慎重かつ丁寧に見ることを大切にしていますが、対話の仕方（言葉の使い方）によって相談者一人ひとり受け取り方が異なることもあって「この話し方や伝え方して大丈夫かな…」等と深く考え込んで相談者に返信することが遅くなってしまうことがあります。ですが、気づきや学びを得られて自分自身のスキル向上に繋がっています。

○「やりがい」
相談者から「悩み等話をさせて良かった」、「また相談しに来たい」といった喜びの声だったり、感謝の言葉を言ってくれた時にやりがいを感じます。

③相談員として、相談窓口の意義は、どのように感じていますか？

相談窓口が身近にあることで、心の拠り所が出来て「些細なことでも相談してみよう」という意識が生まれるのではないかなと思うため、相談体制を構築することの重要性を感じています。

対面による個別相談

ここいろhiroshimaでは、LINE相談だけでなく対面での個別相談も受け付けています。（直接対面もしくはzoomを使用します）
交流会に参加する前に、ゆっくり相談したいご家族や、広島県外で遠方にお住まいの方など居場所に参加することが難しいご家族からの相談があります。
「住んでいる地域に相談できる場所がない」という声も

（相談員：Jさん）

①ここいろチャットの相談員として仲間になった理由を教えてください。

あっきーとさーちゃんと話していたら、少ないメンバーで対応していたことに「めっちゃ大変やん」と衝撃を受けました。同世代でコツコツ活動している2人の役に立ちたいと思い、参加させてもらうことになりました。心理師でもあり当事者でもある立場で、もっと現場で対応していきたいと思っていた時でもあり、ありがたかったです。

②日々、相談者のさまざまな気持ちに向き合っているとありますが、相談員としての「むずかしさ」や「やりがい」を教えてください。

常に「この対応で大丈夫かな」と悩みながら臨んでいます。相談が終わる頃には皆さん最初よりも軽くなった状態で日常生活に戻っていかれるご様子があり、やりがいに繋がっています。仲間と複数人で対応しているため、悩んだときにはすぐに相談しながら対応できること、終了後に毎回振り返りの時間を設けてもらっていることが、一相談員としての安心感にも繋がっています。

③相談員として、相談窓口の意義は、どのように感じていますか？

まだまだ日本では「相談する」「人に話す」ハードルが高いと感じます。ましてやセクシュアリティに関する内容は、未だ理解度に個人差があり、当事者やそうかもしれないと感じている人にとって、相談相手を見極めることにも負担を感じると思います。当事者やそうかもしれないと感じている人以外にも、その周辺の人（家族、教育関係者、支援者、事業者等）が相談する窓口というのもまだまだ少ないのが現状です。そんな状況のなかで、安心して話せる相談窓口があることは、個人の救済という枠を超えて、社会的にもとても重要であると感じています。

あり、ご家族で孤立してしまっているケースもあります。LINE相談の「ここいろチャット」と、対面の個別相談という二つの相談方法があることで、相談者にとっても安心できる方法を選びながら接点を持つことができるのではないかと思います。

啓発活動＋自主企画などコラム

広島市内の小学校で6年間関わってきた子たちと

～卒業前に最後の授業を行いました～

2018年にこころhiroshimaを立ち上げ、その時から毎年継続的に関わらせていただいていた広島市内の小学校での授業のこと。出逢った当初は1年生だった子どもたちが6年生になり、卒業前に最後の授業として私たちのライフストーリーをお話ししました。体育館で真剣に私たちの話をきいてくれている姿がとても印象的で、最後はみんなで記念写真も撮っていただきました。

この6年を振り返ると、最初は私たちも活動を始めたばかりで何も実績がない状態だったのですが、学校の先生方と一緒に指導案を検討しながら、発達段階に応じた授業づくりを展開できました。どの学年に対しても、一人ひとりが大切な存在であり、お互いの違いやもちあじを受け止め合う感覚を伝えていくことを大切にしながら授業をさせていただきました。また、毎年どの学年にも継続的に関わらせていただけたことで「あっきー先生とさーちゃん先生だ!」「今日はどの学年に行くの?」と子どもたちが気軽に声をかけてくれるような関係性をつくることができました。お昼休憩や給食の時間もともに過ごさせていただき、授業外の時間にもたくさん関わられたからその



関係性なのかなと思っています。

実際に「会って知ること」で遠い世界の存在ではなく、身近な存在として感じてもらうことを大切に活動を続けてきたのですが、6年間を通じて私たちも子どもたちの成長を身近に感じさせていただき、卒業まで見届けられたことに感謝です!ずっとこれからも応援してしています^-^

講演会後の個別相談の様子

5年前、ある市町主催の講演会でのこと。講演終了後に1枚のチラシを握りしめた小学生が私たちのもとへ近づいてきました。握りしめていたのは、講演会の案内チラシ。緊張した様子のその子は、「相談したいことがあるんです」と伝えてくれました。私たちは主催の方をお願いして、個別相談ができる部屋を確保していただきました。保護者にカミングアウトしていないというその子は、学校でもらったチラシを見て、一人で来てくれたとのこと。部屋に入り座った途端、何かが溢れ出るかのように自らの話を泣きながら1時間ほど話してくれました。話した後のとてもすっきりした表情が印象的でした。

講演会というと、一方的に話をして終わりということも多いのですが、講演会で私たちのライフストーリーを聞いてもらったからこそ、「話しても大丈夫かもしれない」と思ってもらえたのではないかなと思います。

私たちとしてはとても印象深い出来事だったので、「あの子元気にしてるかな?」と度々思い出すお子さんだったのですが、実は先日5年越しに連絡があったのです!(ちょうど話題にしていたタイミングだったのでびっくりでした!)高校生になった今、再びこころにつながってもらえたことが嬉しかったです。

「あのとき、泣きながら話す私の話をちゃんと聴いてくださって嬉しかったです。本当に感謝しています」とメールをもらい、活動を続けているとこんなことも起こるんだなあ感慨深い気持ちになりました^^

山口県の総合支援学校で講演会を行いました

2024年は県外の学校からのご依頼も多く、この度初めて山口南総合支援学校で講演会を行わせていただきました。障がいのある生徒さんに向けて「自分らしく生きる」ということを伝える講演会で、私たちとしてもチャレンジでした。事前に何度も先生方と打ち合わせを重ね、生徒さんの実態に合わせながら内容や伝え方を考えて、ドキドキしながら当日を迎えました。普段伝えているライフストーリーを、イラストや言葉を付け加えたスライドを用いて伝えたのですが、どの生徒さんも一生懸命私たちの話をきいてくれました。また講演後のグループワークで、私たちへ質問や自分の好きな物を紹介してくれる生徒さんがたくさんおり、言葉や絵など様々な表現で感じたことを伝えてくれました。そのやりとりが、とても嬉しかったです!

私たちが精一杯伝えたことに対して、素直に応えてくれる生徒さんの姿を見て、「自分らしく生きる」ということは、障がいの有無や程度に関係なく、どの人にとっても大切なことであることを改めて感じました。今回の講演会は、自分たちのライフストーリーや存在から人権感覚や生き方を届けていることをより実感させていただく機会となり、これからも様々な対象の方々に届け続けていこうと思います^-^

医療・福祉系の講演・研修会を行いました

2024年は、医療・福祉系の企業や学校に行かせていただく機会が増えました。病院で出来る環境整備や対応を職員の方々と考えることができたり、これから現場で働く学生さんたちに向けてお話できる機会が得られたことは1期目の大きな変化でした。LGBTQの人々は医療・福祉サービスへのアクセスに障壁があることも多いのが現状です。認定NPO法人Rebitの調査「LGBTQ医療福祉調査2023」によると、LGBTQである回答者の約8割が障害や生活困窮に

関する行政・福祉サービスを利用した際にセクシュアリティに関連した困難を経験し、医療サービスを利用した際にトランスジェンダー男性・女性の約8割がセクシュアリティに関連した困難を経験したとの結果が出ています。医療・福祉は生きていくうえで欠かせないものであるにもかかわらず、LGBTQの人々を想定した取り組みが遅れていることが課題です。こころhiroshimaとしても、つながりのある関係機関と今後も連携を図っていきながら、安心できる社会に向けて歩んでいきたいと思えます。

自主企画をしました!

～あるがままの私に気づくリトリート@北広島町～

2024年10月5,6日に、こころhiroshimaとして初めてリトリート企画を行いました。リトリートとは「非日常」と「対話」を掛け合わせた体験で、自然の中で自分自身を見つめ直す旅プログラムです。ずっと私たちの中でやってみたいと思いつつ、なかなか実現できていなかったのですが、この度北広島町にある民宿かみおかのご縁から企画を実現することができました。

4名の参加者の方と1泊2日ともに過ごしなが、北広島町の森林を散策したり、焚き火を囲みながら対話をしたり、ソロで各々自分の過ごしたいように過ごす中で、普段の生活では忘れてしまう「ゆったり」や「リラックス」という感覚を味わっていききました。またなんとと言っても民宿かみおかのご飯が美味しいんです!その土地にある食材をシンプルかつ丁寧に調理してくださって、食べると自然と元気が湧いてきます。主催者である私たちも、参加者のみなさんと一緒に北広島の自然や食を味わいながら、エネルギーチャージされるような時間でした。

法人化して初めての有料の自主企画でもあり、参加者の皆さんが集まるか、プログラムの進行はどうかなど不安もあったのですが、アンケートでは「また参加したい」というお声もいただき、1期目に自主企画を実施・経験できて本当によかったです。今後もリトリート企画や講座など、自主企画を開催していこうと思えます!



高知県でのパレードに参加しました! + 2025年の広島でのパレードのお知らせ

2024年11月30日に、高知県の香南市立野市中学校にて講演をさせていただきました。初めて高知県で講演をさせていただいた喜びを胸に、その日開催された高知にじろパレードに参加させていただきました^^高知県として初めてのプライドパレードということで、私たちもドキドキワクワクしながら歩きました。みんなで歩いていると、なぜだか涙が出てきたんですね。

僕(あっきー)の学生時代の友人には高知県出身の子もいるのですが、「地元では暮らせない」と言っていたのを思い出しました。その言葉は、広島で知り合った友人からも聞いた言葉でした。その土地で、プライドパレードが開催されていて、浴道では温かく手を振ってくれていたり、たまたま通りかかった高校生が「堂々と生きられる世の中になってほしいっすよね!」と、言ってくれていたのも相まって、泣いちゃったんですね。もしかしたら、歩いた人の中にはその瞬間だけ自分らしくいられた人や、歩きたくても歩けない人たちもいたかもし

れない。だけど、自分が住んでいる街でパレードが開催されたということは、「仲間がいること」を可視化されたということ。私たちも勇気をもらえた時間になりました。

そしてついに、広島県でも2025年10月11日(土)に『ひろしまプライドパレード』が開催されます。単独としては初めての開催です。ぜひ、パレードに参加してみたい、関心のある方は公式ページを

チェックしてみてくださいね^^ 公式ページはこちら▶



たくさんの方に支えていただきました。

(2024年1月25日～2024年12月31日まで)

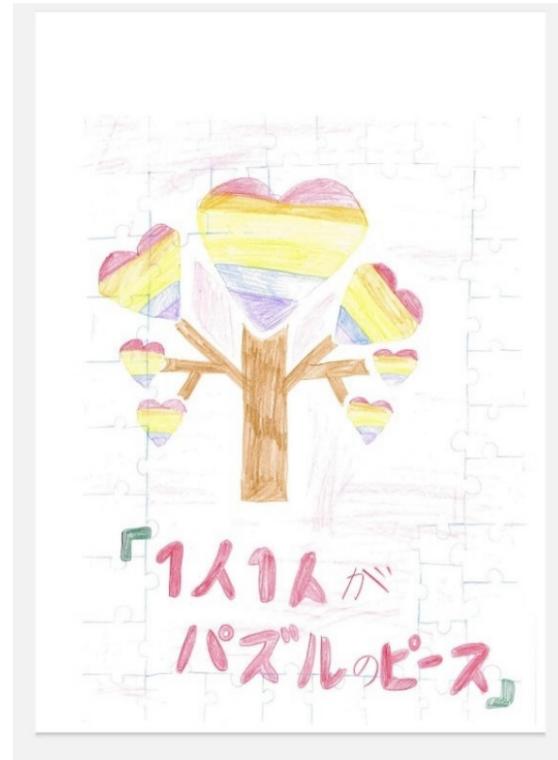
マンスリーサポーター人数



92名

単発寄付者

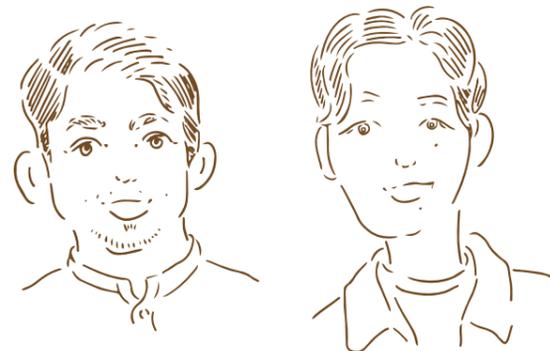
のべ70名



みなさまのご寄付のおかげで、2024年も子どもたちや保護者のための居場所づくり、相談事業に取り組むことができました。改めて、お礼申し上げます。

法人1期目である2024年は、「希望の種」マンスリーサポーターとして**92**名の方に月額寄付で支えていただきました。単発ではのべ**70**名の方にご支援いただきました。

「この活動で命を救われる子どもたちがたくさんいると思います」「いつも子どもの支えになっています」「社会的にも大きな課題です。ともに力を尽くしましょう」「10年先を想像でき、希望を持てる社会を創るということに共感、賛同します!」と、ご寄付とともに心強いメッセージをいただきました。引き続き、一緒に未来を創る仲間として支えていただけると嬉しいです。



決算報告書

損益計算書

自 令和6年 1月 1日
至 令和6年 12月 31日

一般社団法人ここいろhiroshima

(単位:円)

I 売上高			
売上高	3,457,734	①	
寄付金収入	2,169,056		5,626,790
II 売上原価			
居場所事業	123,343	②	
相談事業	170,792	③	
啓発事業	33,802		327,937
売上総利益			5,298,853
III 販売費及び一般管理費			
役員報酬	500,000	④	
法定福利費	23,779		
福利厚生費	1,748		
外注費	2,901,389	⑤	
広告宣伝費	48,340		
交際費	3,280		
会議費	19,428		
旅費交通費	139,880		
通信費	98,108	⑥	
消耗品費	30,328		
支払手数料	52,180	⑦	
地家賃	570,000		
保険料	1,800		
租税公課	2,700		
減価償却費	115,000		
雑費	3,413		4,511,373
営業利益			787,480
IV 営業外収益			
受取利息	190		
雑収入	228,240	⑧	228,430
経常利益			1,015,910
税引前当期純利益			1,015,910
当期純利益			1,015,910

① 売上高
啓発事業や自主企画、行政からの受託などによる収入となります。

② 売上原価 居場所事業
交流会の会場費や茶菓子、消耗品の購入費用です。

③ 売上原価 相談事業
相談員への業務委託費、LINEシステム利用料、相談カード作成費となります。

④ 役員報酬
2024年9月より、共同代表理事2名の役員報酬(給与)として月額5万円を設定しています。

⑤ 外注費
啓発事業の収入の一部を外注費として講師担当者に支払っています。その他、動画撮影やホームページなどの業務委託費が含まれています。

⑥ 通信費
寄付決済システム料や郵送料となります。

⑦ 支払手数料
外部講師への謝金が含まれています。

⑧ 雑収入
地域再生大賞の賞金と、広告協賛費として受け取った収入になります。

私たちのビジョン



私たちが実現したい世界。

それは、私たちにつながる人々が自分の10年先を想像でき、希望をもてる社会をつくることです。

人は、安心できるつながりがもてず、自分の未来が思い描けないとき、孤立と無力感から自分の人生を生きることを諦めたくになります。最悪の場合、自ら命を絶つ選択をします。

そんな風に自分の命の灯火が消えかけている時、支えになるのは、「信頼できる仲間」と「少し先の未来を見せてくれるロールモデル」という存在です。

私たちは自分の未来に希望が見いだせない中、仲間とロールモデルに出会い関わることで「自分はひとりじゃない」「大丈夫かも」「もう少し生きてみよう」と少しずつ思えるようになりました。

そして、「少し先の未来」を想像しながら「なりたい自分」になるために、いま自分ができる行動を積み重ねていきました。

ありのままの自分で人と関わる、ありたい性で働く、本当に好きな人とパートナーシップを築くなど、過去の私たちにとっては想像もできない未来でしたが、「少し先の未来」を積み重ねていくことで、今の私たちはその未来を生きています。

だから私たちは、自分自身を救ってくれた存在のようになることで、子どもたちが自分の「少し先の未来」に希望がもてるように、子どもたちに関わる大人が安心して子どもたちの成長を見守れるように、ともに歩いていく団体として活動しています。

一般社団法人 ここいろhiroshima

現住所 〒730-0045 広島市中区鶴見町2-24 1階
共同代表理事 當山敦己・高畑桜
理事 石田優一朗・木谷幸広・藤井恭子
銀行 GMOあおぞらネット銀行 法人営業部支店 普通 1890098 シャ)ココイロヒロシマ
寄付用銀行 ご寄付のお振込先

ゆうちょ銀行からお振り込みの場合		ゆうちょ銀行以外からお振り込みの場合	
記号	15190	銀行名	ゆうちょ銀行
番号	49978321	店名	五一八(ゴイチハチ)
口座名義	ここいろhiroshima	口座番号	普通4997832
		口座名義	ココイロヒロシマ

デザイン 土井亜子



Website



Instagram



LINE



cocoirohiroshima@gmail.com



月額寄付『希望の種』サポーター募集中!

1000円/月のご支援で

「10年先を想像でき、希望を持てる社会」を創る

『希望の種』マンスリーサポーターになりませんか?



詳しくはこちらより
ご覧ください

